

治療した部位と治療方法

1 問診診察結果 (キッスする人形)



図-1 診察前



図-2 内部の状態

- (1) 全く動かない。
- (2) 電池は新しいが入っている。
- (3) 内部を診察すると
 - 電池 BOX の端子が錆びている。(図-3~4)
 - 機械部を固定する台座(図-2 の黒○印3箇所)が、図-2 下方のように砕けて落ちていた。
 - 図-3・4 は、もっとも酷い錆びの状態。
- (4) スイッチは、コイン等導電物を入れると ON になる仕組みである。



図-3 マイナス端子



図-4 マイナス端子裏側



図-5 電池 BOX 手入れ後の状態

2 治療の方法

- (1) まず電源部を治療した。
 - プラス側は、導通・非導通スレスレの錆びだったが、マイナス側は、図-3 図-4 のように酷い錆びであった。図-5 のように錆びを落とし、接点復活材を塗り、BOX も手入れした。
- (2) 次に、機械部の取り付け(固定)の台座を治療した。
 - 図-8 は、機械部を収める BOX で、機械の固定台座、底板固定用台座(メスネジ穴)、コイン等を挿入することでスイッチ ON となる仕組みである。 ※図-8・図-9 は次のページ
 - 機械は3箇所固定しているが、3箇所とも割れ・半分縦に欠け・特に※は図-2 の下のように酷い壊れ方だった。このままボンドだけでは到底振動に耐えられないので工夫が必要だ。
 - 直径 1cm・内径 8.3mm のアンダーラインペンのキャップ(プラスチック)を台座の長さに合わせて切断し、台の外側に間隔が均等になるようにボンドで貼り付け、その空間に図-7 のようにプラ粉を入れボンドを流し込み、図-9 の拡大図のように仕上げた。



図-6 一番酷い壊れ部分



図-7 プラ粉

- 図-6 は、特に酷い壊れ方をしていた箇所。幾つにも割れていたため、まず上半分をボンドで付けて、下半分もボンドで整えて7図のように上の穴、下の穴がずれないように注意してボンドで貼り合わせた。
- 8図・9図でピンクの色付けしている箇所は、底板を固定する台座である。

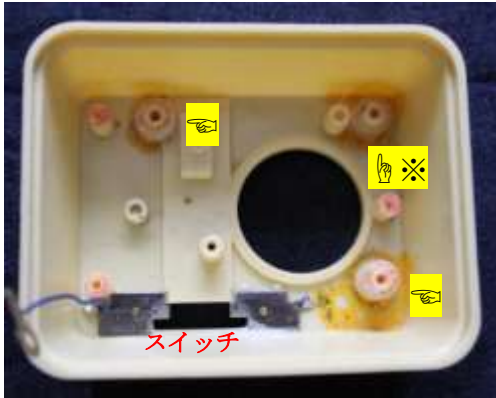


図-8 機械部収納BOX

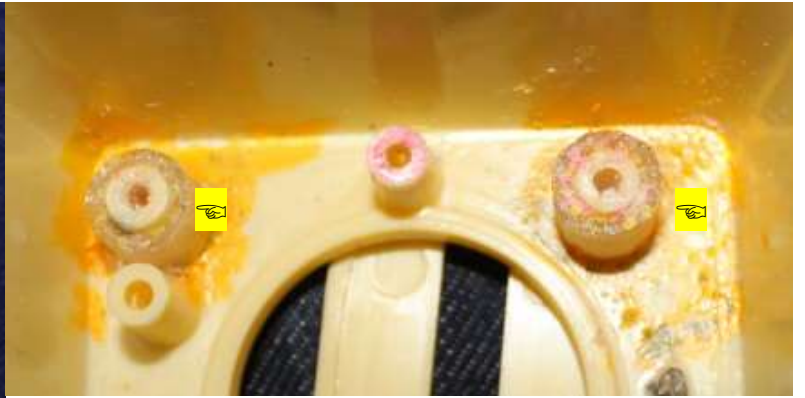
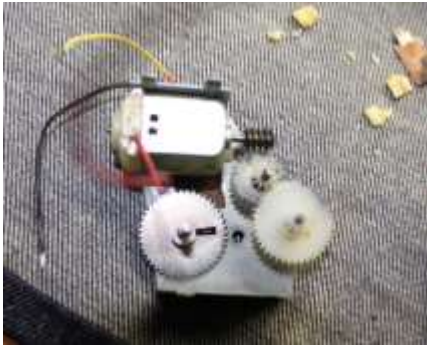


図-9 治療後の台座の拡大図

(3) 次に、ギア部を分解して、ギアの山を一つ一つ診察して異状の無いことを確認した。



(4) 参考写真



(5) 新しく作成した部品



- 写真下側の左4枚の導電版は、コイン状が正しい形なのかも知れないが、手を抜いて、作りやすい平板状にした。これを入れると、スイッチが入り近づいてキスし、また離れるの繰り返しの動作をします。スイッチが入り、回転しだすと、平板は下のグリーンのBOXに落ちます。
- 図-10のL型の部品は、差し込んでスイッチがONの後スポンジのもとに戻る作用で接点から離れる。グリーンのBOXに入った平板は、ネジを緩めBOXを外して取り出すことが必要になります。



図-10

3 ドクターからのアドバイス

L型の導電具を使えば、グリーンの箱を外して平板を取り出す手間が省けます。

お渡し予定日：平成29年04月23日
担当ドクター：谷 春 雄